

2024年度事業計画

自 2024年4月1日

至 2025年3月31日

2024年度も、昨年度に引き続き経営環境の厳しい状況でのスタートとなりますが、会員第一を念頭に、施設協会の基本的な役割である、①鉄道施設技術を「横」と「縦」に繋ぐ取り組み、②協会の持つ公的性格を有効活用した取り組みを行い、会員の皆様に貢献できる活動を行っていきます。また、各事業を効率的に行い、安定した協会運営が維持できるよう取り組んでまいります。

1. 鉄道施設技術を「横」と「縦」に繋ぐ取り組み

- (1) 今年から試行を始めた電子会員の定着を図り、会員との双方向コミュニケーションの充実を目指します。また、協会創立70周年事業で整備した「施設協会ライブラリー」を多くの会員に有効活用して頂けるよう取り組みます。
- (2) 施設協会誌は引き続きオンラインを活用した編集体制変革への取り組みを継続し、幅広い範囲からの情報を取り入れ、多くの会員に読んで頂く編集を進めます。また、業務資料「軌道管理」連載を継続し、将来「冊子」にまとめます。
- (3) 会員の減少を抑え、多くの方に会員になって頂くよう学生会員等の導入など会員の幅を広げる検討を行います。また、協会の活動、役割を理解して頂く取り組みを行い、会員の増加に努めます。
- (4) 協会ホームページについては、保安講習会の案内や講演会等の諸行事についてのお知らせをよりわかりやすく、見やすくする取り組みを継続し、タイムリーな情報発信に努めます。
- (5) 鉄道施設技術発表会、用地・協議業務研究会および総合技術講演会は、昨年度に引き続き対面での実施を行い、多くの会員の交流、意見交換の場を作っていきます。また、当日聴講できない会員のために録画映像の配信を行います。
- (6) 鉄道の安全確保、技術の向上に寄与するため、支部活動として講演会、表彰等を行ってまいります。

2. 公的性格を有効活用した取り組み

- (1) 保安事業では、オンライン講習、動画配信、動画上映講習などを本実施するとともに、それらを活用した遠隔地での講習会の開催など、受講会社等と一体となり、受講者ニーズに応え、効率的でより質の高い講習を行っていきます。
- (2) 保安講習事業の基幹システムである「保安講習会管理システム」を九州事務所、小田急電鉄用に導入し、更なる利用者の利便性の向上と協会の業務効率化等を進めます。
- (3) 現在受託している JR、一部民鉄以外の会社からの新たな資格講習会の受託に取り組むとともに、その拡大を有効に活かして鉄道事業者の安全と安定輸送に貢献していきます。
- (4) 外国人技能実習制度試験実施機関として初級試験の継続実施及び3年目の実習生を対象とした「専門級」試験実施に向けた対応を行うとともに、特定技能制度試験機関として、国、鉄道事業者、施工会社等と協調して取り組みます。
- (5) 国土交通省からの軌道の維持管理講習会等の受託を継続し、オンラインでの開催とともに現場での研修再開の検討を行います。
- (6) 鉄道設計技士試験受験対策講習会は多くの方が受講できるよう対面、オンラインを併用して行います。
- (7) 鉄道技術検定試験は JR 東日本、JR 北海道以外の民鉄等に対しても定着と拡大に向けて引き続き取り組みます。
- (8) 叙勲について、特に民間企業からの選出については協会の重要な役割の一つとして取り組んでいますが、今後も鉄道施設従事員のモチベーション向上のために、支部等との連携強化を一層進め、より多くの推薦、確保を目指します。

以上のような取り組みを行い、より会員の皆様に満足頂けるよう努めてまいります。保安講習等の受講者の減少は引き続き継続すると想定していますが、今年度は昨年度下期から行った保安講習料金の値上げの通年化や経費の更なる抑制などにより収支均衡を図ってまいります。

引き続き会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。